

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

サイエンス（空気、光、色）

<テーマの設定理由>

日当たりのいい園の特徴を活かし、遠足で行ったジブリ美術館でステンドグラスに興味を持ったことから、光と色の関係などについてもっと深く探求し、身近にある光や色についての興味関心をさらに深めていく。

2. 活動スケジュール

・1/7サイエンスエンタテイメントさんを外注し、サイエンスショーを鑑賞する。

午睡中に振り返りを行う。

子どもたちが空気砲や傘袋ロケットに興味を持ち、自分たちも作ってみたいと保育者と一緒に活動の中で作り、公園に飛ばしに行く。

・1/30サイエンスエンタテイメントさんのワークショップを外注し、偏光板を使って光の偏光の性質を性質を体験する。

ワークショップ

午睡時間中に振り返りを行う。

・2/16サイエンスエンタテイメントさんによるワークショップで虹づくり体験とサンキャッチャーづくりをする

午睡中に振り返りを行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・サイエンスエンタテイメント外注・テーブル・椅子・ラミネーター・ラミネーターシート・カラーセロファン・ランタン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・サイエンスショーで空気砲を使って空気について知り、考える。

・サイエンスショーでの気づきを保育者と一緒に振りかえり、今度は自分たちで作って体験する。ライトをCDにあてて虹を作る体験をする。

・偏光板を通してみる

ライトをガラスボールにあてて光を反射させて、動く光を楽しむ。

サンキャッチャーをビーズを組み合わせて作る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

<サイエンスショーをみての発見、気づき、子どもたちの声>

・何が始まるのだろうとワクワクしていて、一つ一つにリアクションして見ている。

・空気砲から風が出ているはずなのに目に見えないのはなんで？→「透明だから！」「冬だったらみえるかも。」

・髪に空気砲あててみたらどうなるかな→「（髪を揺らして）こうなる！」

・みんなも空気砲になってもらおう！人間空気砲になって空気をみんなが出すにはどうしたらいいかな→「息をふーっと出す。息をはーっと出す。」どっちが強い空気が出る？→実際にそれぞれどちらも自分の手に向けてやってみる。

「ふー！ふーのほうがいい」「はぁーの時全然空気出なかった」

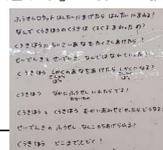
・段ボールの空気砲のなかに煙を入れて空気を目に見えるようにしてみよう。→「穴が丸だから丸い空気が出るんだ」

・空気砲の中に風船とか何か重いものを入れたら出てくるのかなあ？

・空気砲を向かい合わせにして風を送ったらどうなるかなあ？

・CDに光を当てると虹の色が壁や天井に移り「赤、黄色、青・・・」と色を声に出して確認する。

・手のひらでライトをつつみ「血の色は赤！」「手のひらでやるのと指でやるのとではちょっと違うな」と初めに教えてもらったことを自分の手のひらで試してみても発見する。



<写真>



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・サイエンスのテーマが少し難しい部分もあったが（光の屈折などの理解は難しい）、実際に自分たちの目で見てやってみるということが出来て発見を楽しんでいた。

・とても集中して取り組んでいたし、保育者が気づかない部分に目を向けていた。

・科学の力というより子どもたちからしたら、魔法のように感じていたような気がするが、そうだとでもわくわくして自分で色々なことを発見できていた。